（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 28 日

県立霧が丘高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月　日実施）	総合評価（３月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッション、生徒の実態、教育ニーズに即した新たな魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みを推進する。 ③これからの時代に必要な資質・能力を育成するため、主体的な学びの向上、探究的な学びの推進、グローバル化・ＩＴ化への対応を見据えた取組みを行っていく。	①新教育課程施行２年目を迎え、各教科が指導要領に則り新課程にスムーズに対応する。 ②中高連携事業や外部機関との連携等を通じ、互いを認め合い、支えあう力の育成を図る。 ③ICT を活用した授業の充実化を図る。	①新教育課程における本校の教育課程が、生徒の目標やニーズに適っているか、選択に問題はないか、検証する。 ②連携生に対するきめ細やかな学習支援、進路支援を充実させる。 ②共生社会の実現に向けた全生徒対象の学習会、講演会を実施する。 ③ICT を活用した授業研究や研修会を実施し、誰もが活用できるように推進する。また、全生徒 iPad 所持、全教室モニタ配置のメリットを活かした授業を研究する。	①選択科目指導や時間割の作成において問題がなかったか。 ②科目修得や希望進路の実現ができたか。 ②講演会受講時の生徒の反応、アンケート等により意識が向上したか。 ③授業研究や研修会を実施できたか。また、課題を共有し、解決する取組みができたか。					
2	生徒指 導・支援	①自らの夢や目標に向かってチャレンジしながら未来を切り拓いていく力を育成するとともに誰もが霧高生であることにプライドが持てる活気ある学校づくりを行っていく。 ②多様性を受け入れ、他者を認め合い、支え合いながら主体的に課題を解決する力を育成するとともに、「インクルーシブな学校づくり」を行っていく。 ③規律と秩序のある生徒指導ときめ細かい支援体制を確立する。	①生徒の主体的な活動を活性化させるために、生徒会、委員長会、部長会が軸となって、生徒同士を繋げながら、お互いの立場や役割への理解を深め、積極的に協力して問題解決を行う。 ①生徒自ら常識的な行動を選び、お互いに気持ちの良い人間関係を築く。 ②生徒対象の研修会を通して、他者を認め尊重していく姿勢を醸成していく。 ③アフターコロナの生活様式に適応した規範意識を醸成していく。学年間で共通認識を持って生徒指導をしていく。また、多様な生徒の実態に応じた指導と指導体制を確立する。	①より良い学校生活のために、生徒自らそれぞれの立場や役割を活かした提案ができる機会、またその考えを具体化できる機会を作り支援する。 ②インクルーシブ教育や人権教育に関する生徒向け研修会を年４回以上開催し、多様性や他者を認め合う中で、様々な課題解決方法を考え実践する機会をつくる。 ③自転車通学マナーや生活習慣改善ポスターなどを作成し、学校生活の中で秩序を守ることの大切さに対する啓発をする。また、個別の指導では、教育相談やケース会議等を有効活用する。	①生徒のアイデアを活かした活動ができたか。生徒主体の活動が増えたか。リーダー同士の協力体制が築かれたか。 生徒が実感を味わえる機会を作れたか。 ②研修会を通じ、多様性や他者理解、課題解決方法を考える機会があったか。 ③日常の高校生活マナーを意識し改善することができたか。 ③SC や SSW を有効活用し、個別の相談や課題に対し組織的に対応できたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月　日実施）	総合評価（３月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①職業的・社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成し、自らの力で生き方を選択し、自己の未来を切り拓いていく力を育てる。 ②生徒一人ひとりが自らの意思によって将来の進路を選択し、自己実現を果たしていくための能力の育成に向けた指導・支援を行うとともに、生徒のあらゆる進路ニーズに対応したキャリア支援教育（進路指導）体制を構築する。	①他者そして社会の在りようを通して自己を理解するために必要な技能や情報を、系統立てて身に付けることができるような方策を計画し実施する。 ②生徒一人ひとりの目標達成に対し、最適化されたプログラムを提供する。	①社会全体の課題を知り考察することで自己理解を深めていけるような場を、総合的な探究の時間での活動を中心に展開する。 ②生徒のより良い進路選択に向けた情報を発信し、自ら進んで進路実現に向けて取り組めるような機会を増やす。	①生徒が学年末の振り返りで行う自己評価で、自己理解や他者理解の深まりを実感できたか。 ②生徒や保護者等に対し、時宜を得た情報を発信できたか。また、自己分析を必要とする課題への取組みや資格・検定試験への取組みが増えたか。					
4	地域等との協働	①保護者や地域社会に対し、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための積極的な情報発信と学校ＰＲを行っていく。 ②地域との交流や協働、地域貢献等を通じ、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりに取り組む。	①学校ホームページ、部活動画、学校説明会、チャレンジスクール等を通し、積極的に情報を発信していく。 ②生徒の地域貢献や地域交流の経験値を向上させる。近隣の学校との学び合いの機会を作り、霧高生として地域のために何ができるかを考え、実践する。	①校内外の学校説明会を通じて、霧コンシェルジェをはじめとした本校生徒の活動を発信する。 ①学校ホームページを適切に更新するとともに、広報動画、活動動画等内容の充実を図る。 ②生徒が地域のために何ができ、何をしたいと考えているか、また地域が霧高生とどのような関りを求めているかを把握し、現在ある機会を充実させながら、必要に応じて新たな機会を開拓する。	①説明会参加者へのアンケートで肯定的な回答が 80%以上となったか。 ①ホームページ更新が月１回以上できたか。 ②地域と連携した活動を実施することができたか。生徒の視野が広がり、学校生活の充実につながったか。					
5	学校管理 学校運営	①保護者から信頼され、地域から愛される安心・安全な学校づくりを行う。 ②防災意識を高めるための防災教育を地域や保護者と連携しながら組織的に行っていく。 ③教職員が生き生きと教育活動に取り組むことができるための「働き方改革」をさらに推進していく。	①危険等が発生した際に教職員が円滑かつ的確に対応できる体制を整える。 ②生徒並びに職員の防災意識をさらに高め、組織的な防災体制と有事を意識した訓練を実施していく。 ③職員の働きやすい職場環境を整えるとともに、生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故・不祥事防止に努める。	①危機管理マニュアルを作成し、教職員の意識向上を図る。 ②校内の組織を機能させるため、役割分担を明確にした訓練を行う。 ②生徒対象の DIG 研修を行い、防災・安全意識を高めるとともに、有事の際の保護者と連絡手段・引き渡し方法の確認を行う。 ③職員間の声かけを実践する。また、定期的に事故・不祥事防止研修を行う。	①危機管理マニュアルを作成し、共有できたか。 ②職員研修、防災訓練を実践的な内容で実施できたか。 ③事故・不祥事防止研修を何回実施したか。また、不祥事ゼロを達成できたか。					